

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音1】

【分科会】小学校音楽科

【実施日】令和8年9月29日（火）

担当大学名	東京音楽大学			
会 場	(会場名) 東京音楽大学 中目黒校舎			
	(所在地) 東京都目黒区上目黒1-9-1			
講 師 (肩書・氏名)	新林一雄（東京音楽大学准教授）太田暁子（東京音楽大学講師）柴山拓郎（東京音楽大学特任教授） 中橋愛生（東京音楽大学教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 オンライン ○	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	授業の改善・充実のための音楽の学びなおし			
研修内容の概要	音楽の諸ジャンルについて広く学び直し、授業実践に活かすための諸知識を学びます。 1) オーケストラの歴史・楽器編成を学び、代表作品の特徴や鑑賞における指導ポイントを学びます。 2) 我が国や郷土の音楽の特色を理解します。 3) 音楽とテクノロジーの諸相について知り、ICTを活用した音楽づくりや総合的な学習の時間と関連させた指導につながる視点を得ます。 4) 金管楽器、木管楽器についての知識とその音楽の面白さを知ります。			
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」(2)器楽、(3)音楽づくり、「B鑑賞」(1)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	1) オーケストラの歴史・楽器を知り、代表作品を聴きながら、鑑賞における指導ポイントを解説します。 2) 我が国や郷土の音楽について、実演をまじえながら、国語科や社会科（歴史等）の視点を活かした解説をします。 3) 音楽とテクノロジーの現在について、音楽づくりや総合的な学習の時間へつながるヒントを紹介します。 4) 金管楽器、木管楽器についての知識を、音色を中心に音楽を聴きながら整理します。			
到達目標	音楽の基礎知識を広く学び直し、指導のポイントを確認することによって、授業の改善・充実に役立てるようになる。多様で自由な授業展開へつながる新しい知見を得る。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		オンライン／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	オーケストラの歴史と楽器編成～鑑賞の指導ポイント		オンライン
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:00	我が国や郷土の音楽の特色		オンライン
	14:10～15:10	音楽とテクノロジーの現在		オンライン
	15:20～16:20	金管楽器、木管楽器の魅力と音楽		オンライン
	16:30～16:50	全体講評・振り返り（教科調査官）		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	特になし			
特記事項	○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：インターネット環境			

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音2】
【分科会】小学校音楽科 **【実施日】令和8年9月30日（水）**

担当大学名	徳島文理大学			
会 場	(会場名) 徳島文理大学高松駅キャンパス ムラサキキネンホール			
	(所在地) 高松市浜ノ町8-53			
講 師 (肩書・氏名)	徳島文理大学教授・若井健司			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	子どもの歌声づくり ～発声指導及び変声期への対応を中心に～		
研修内容の概要	自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を子どもたちが身に付けていくためには、教員自身が発声の仕組みや変声期に関する見識を深め、適切な指導法や変声期児童への配慮の仕方を学ぶ必要があります。本研修では、発声面に焦点化し、発声の指導法、変声期への対応方法について理論と実践の両面からアプローチします。子どもの歌声づくりに関する実践的な課題を克服するために、ヴォイストレーニングのさまざまな方法を実践し、教え学び合うことを通して、授業改善に結び付く視点や方法を学びます。		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」(1)「歌唱」ウ(イ)／〔共通事項〕 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(4)ウ(変声期の指導)		
内容と方法	①理論や動画視聴を通して「発声の仕組み」を理解します。 ②音域の変化で声切り替わる換声点を認識するとともに、中声域を活用した指導法を学びます。 ③変声期について資料や動画等を用いて再確認します。 ④子どもの歌声づくりに効果的な発声練習（母音体操）を実践し、教え学び合う中で実践的な指導のヒントやアイディアを得ます。		
到達目標	①発声指導や変声期への対応に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、子どもの実態や発達段階に応じた指導を工夫することができる。 ②歌声づくりの大切さを実感し、授業改善に向けて指導法や学習内容に関して新たな視点や方法を考察することができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：視学官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	発声指導について 歌声の実例とその検証及び中声域の活用	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:20	変声期への対応について 理論と実際	参集
	14:20～14:30	休憩	
	14:30～15:50	ヴォイストレーニング 各種体操・練習実践	参集
	15:50～16:00	休憩	
	16:00～16:30	グループディスカッション	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	簡単な体操ができるような服装		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：特になし		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図1】
【分科会】小学校図画工作科 **令和8年9月29日（火）**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名)	東京藝術大学 上野キャンパス 中央棟第5・7講義室		
	(所在地)	東京都台東区上野公園12-8		
講 師 (肩書・氏名)	伊藤将和 准教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○	20名
			オンライン	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	屏風の「かたち」を楽しむ～平面から空間へ広がる日本絵画の構成美 ～			
研修内容の概要	本講座では、日本の伝統的な絵画形態である「屏風（びょうぶ）」に着目し、四角い平面枠にとどまらない立体的な表現構造を学びます。実際の屏風作品等の鑑賞を通して、「時間の変化や物語の連続」「表裏の対比」「左右の入れ替えによる空間の連続」といった視点から、画面構成の妙を体感します。実技では、これらのアプローチを活かした二曲一双の両面ミニ屏風を構想します。また、岩絵の具や着色雲母を自ら膠（にかわ）で溶く工程を体験します。限られた色数の中での日本的な美意識を味わい、奥行きなどに着目した新たな空間表現の指導法とその教育的意義を考察します。			
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：「A表現」(1)イ、(2)イ、「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	前半は屏風の鑑賞活動を通し、日本画特有のスケール感や表現技法に触れます。後半の表現活動では、屏風特有の多面的な画面構成を活かしたミニ屏風を制作します。岩絵の具をはじめとした日本画独特のプリミティブな素材の性質に触れ、自ら膠（にかわ）で絵の具を溶く（作る）という体験を行います。直接肌を通して素材を味わいながら日本画独自の基礎工程を学ぶとともに、造形活動を通して、「表と裏」「右と左の入れ替え」「時間の循環」といった画面の組み合わせによる表現の変化を試行錯誤し、児童の思考力・判断力・表現力等（発想や構想）の育成へ結びつける手立てを探ります。			
到達目標	・屏風の折れ曲がりや両面構造が絵画空間や配置の組み合わせに与える影響を理解し、日本絵画独自の表現形態の魅力を感じ取る。 ・屏風の立体的な構造を意識し、置き方や組み合わせによる変化を取り入れた画面構成（図案）を工夫して考えることができる。 ・岩絵の具や雲母を膠で溶く体験等を通して、小学校の図工授業へ応用できる材料指導と表現の指導法を考案できる。			
スケジュール		実施内容	実施方法	
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部） 芸大美術館にて日本画作品鑑賞		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:30	テーマ別実践研修（午後の部） 屏風の空間性に関する鑑賞・導入		参集
	13:30～14:10	各自のテーマをもとにミニ屏風（二曲一双）の構想・図案づくり		各自活動
	14:10～14:40	岩絵具と膠で絵具作り体験		グループワーク
	14:40～16:20	自ら調製した絵の具を用いたミニ屏風への着彩・制作		各自活動
	16:20～17:00	課題の振り返りと調査官による全体講評		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	汚れても良い服装（エプロンなど）、筆記用具			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロードもしくは当日配布 ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、昼食時には混雑が予想されます。			

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図2】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和8年10月1日（木）

担当大学名	京都市立芸術大学			
会 場	(会場名) 京都市立芸術大学			
	(所在地) 京都府京都市下京区下之町57-1			
講 師 (肩書・氏名)	美術学部 共通教育 教職担当 教授 飯田真人 美術学部 非常勤講師 國松万琴			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	材料から発想する～土を焼成して器の製作～			
研修内容の概要	我が国の文化や生活の中で陶磁器は茶道をはじめ食文化や生活環境のさまざまな場面でなくてはならないものです。一方で子供たちの生活環境が変化する中、子供たちが実際に陶磁器を使ったり鑑賞したりする機会は少なくなってきたように感じます。それゆえに図画工作科において器を焼成で製作することは造形的な見方・考え方を深めるだけではなく、図画工作を通して文化や生活の中の美しさを考えるきっかけの一つとなるのではと考えます。また、頭の中でイメージするだけではなく、材料を体で感じ取りながら「つくり、つくりかえ、つくる」ことで、思考を深めていく実践方法についての講義や実技も行います。			
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科（各学年）：A表現(1)イ、(2)イ　B鑑賞(1)ア　〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	午前の飯田の講義では、〔共通事項〕に着目し、材料や感覚と知識や技能の関係についてお話しします。 午後からは、飯田・國松から陶芸制作の基本について講義したのち、「たまづくり」の技法を用いて「茶碗」の製作を行い、陶芸の基本を実技を通して学びます。（なお作品については、焼成したのちに受講者の元へ郵送します。）			
到達目標	陶器の豊かな表現を知るとともに児童が自分の感覚や行為を通して形や色や形などの造形的な特徴を理解し、材料などに触れ、造形的な見方・考え方を働かせることができる表現や鑑賞の授業を行えるようにする。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		参集／登壇
	10:45～11:00	休憩		
	11:00～12:00	講義「感覚を通して思考を深める」（飯田）		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:30	講義「陶芸の基本工程」（飯田・國松）		参集
	13:30～14:45	実技「たまづくりで茶碗製作」（飯田・國松）		参集
	14:45～15:00	休憩		
	15:00～16:30	実技「たまづくりで茶碗製作」（飯田・國松）		参集
	16:40～17:00	全体講評		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	特にありません。			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題等はありません。 ○粘土を使用して制作活動を行いますので作業しやすい服装をご準備ください。（更衣室もあります） ○受講する上での環境条件等：昼食会場として学生食堂をご利用いただけますが、混雑している可能性があります。			

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図3】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和8年10月2日（金）

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	前半(実技):豊嶋康子教授 石賀直之教授 後半(理論):石賀直之教授 豊嶋康子教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○	20名
			オンライン	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	「見方を変える」を考えようー思考力、判断力、表現力等（発想や構想）を育成する高学年の造形遊びー
研修内容の概要	身の回りの環境や材料に対して感じたことに対して表現活動を行う高学年の造形遊びを行います。本研修では主に「見方を変えることに気づく」ことに主眼を置きつつ、高学年の造形遊びのねらいや意図の実践的な理解を深めていきます。資質・能力の育成の観点では日常的に過ごす空間や見慣れたものや出来事に変化を与えることを通して主に思考力、判断力、表現力等について高めていきます。 まず始めに環境及び材料の見方とはなにか豊嶋康子講師の身の回りの捉え方とその表現に関する作品を見ながらディスカッションを行い、見方を変えとは何かについて理解していきます。その後、実際に豊嶋康子講師の体験的な作品を受講者自身が実践します。これら一連の活動の中で高学年の造形遊びに見られる学習のあり方について豊嶋康子講師と石賀直之講師と対話をしながらさらに理解を深めていきます。 その後、学習指導要領との関連について石賀直之講師より理論研修を行い、受講者同士のグループディスカッションにおいて高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方について議論していきます。また、高学年の造形遊びにおけるICTの活用方法について理解していきます。 [学習指導要領との関連] 小学校図画工作科（第5学年及び第6学年）： A表現(1)ア(2)ア B鑑賞(1)ア 〔共通事項〕(1)ア、イ
内容と方法	前半 実技講習 豊嶋康子教授 石賀直之教授 1) 豊嶋康子講師の作品群を鑑賞しながら環境及び材料の見方、捉え方について理解を深める。 2) 豊嶋康子講師の作品や表現に対してグループでディスカッションを行う。 3) 「見方を変える」をテーマにした環境・空間・材料・体験を生かした造形遊びを行う。 後半 理論講習 石賀直之教授 豊嶋康子教授 1) 前半の実技講習と学習指導要領の関連について理解する。 2) 高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方についてグループディスカッションを行う
到達目標	○造形遊びにおける材料や場所、空間の意味とその価値に気づくための見方・考え方を理解する。 ○活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方を理解し、その指導法について学ぶ。 ○高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方について理解する。

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:15	講義及びディスカッション：材料や環境を生かした作品の鑑賞	参集
	12:15～13:15	昼食	
	13:15～14:45	実技：環境や材料の見方を変える造形遊びの実践	グループワーク
	14:45～15:30	実技：講評会及びディスカッション	参集
	15:45～16:00	講義：学習指導要領から見る実技と造形遊びとの関連	グループワーク
	16:00～16:30	実技 グループワークによる題材作成	グループワーク
	16:40～17:00	教科調査官による全体講評	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	参集
教材・ 持ち物等	受講会場で配布いたします。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図4】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和8年10月2日（金）

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	岩瀬大地 教授 小林貴史 教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	12名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	自然物とのかかわりから学びの深まりへと 造形活動が育む資質・能力のつながり		
研修内容の概要	東京造形大学は、森の中の大学です。本研修では、はじめにその自然に触れることから図画工作科の活動における材料とのかかわりについて考えていきたいと思います。つくるための材料として自然物を対象化することだけではなく、そこに働きかけていくことからその中にある自然の姿に気づき、表現への発想や構想を豊かに広げ、学びの深まりへとつながる活動の手がかりに触れていきます。また、自らが手を加えたものをあらためて自然の場に置き鑑賞することから、自然の中に在る私が表現することの意味や価値を考えます。そして、これらのことから学びにおける資質・能力が目標と評価として個別に掲げられることにとどまらずに、活動を通して関連しながら働くことによって資質・能力そのものが高まることを確かめていきたいと思います。		
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：「A表現」(1)ア(2)ア 「B鑑賞」(1)ア [共通事項] (1)ア、イ		
内容と方法	大学にある里山の中に入り、視覚的なとらえだけではなく身体を通して自然を感じ取ります。木の枝など自然物を採集し、それらを皮をはいたり、削ったりすることから発想を広げて、自然物がもつ造形的な美しさを顕在化していきます。そして、表現したものを自然の中に置くことによって環境を新たな視点でとらえ直すとともに、環境の一部として表現が生かされていることを確認していきます。また、実技研修での体験をもとに、図画工作科の授業における材料のものやこととしての意味を問い直していくことから、学びの深まりへとつながる資質・能力の働きについて話し合います。		
到達目標	図画工作科という教科の特質をもとに、自然物とのかかわりから表現し鑑賞することにある資質・能力の働きを確かめ、学びの深まりへとつながる授業づくりを考える。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）・里山の散策 ・自然物の採集	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）・自然物を加工 ・鑑賞	参集
	15:00～15:10	休憩	各自作業
	15:10～15:30	自然物とのかかわりから学びが育む資質・能力について検討	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	エプロンや汚れてもよい服装、靴の準備		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：昼食には学食も利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんので、ご注意ください。）		

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図5】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和8年10月2日（金）

担当大学名	常葉大学			
会 場	（会場名） 常葉大学（瀬名キャンパス） 3104教室			
	（所在地） 静岡県静岡市葵区瀬名1-22-1			
講 師 （肩書・氏名）	1部：常葉大学保育学部教授 三原信彦 2部：常葉大学教育学部教授 長橋秀樹			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	「幼・少の連携についての理解と実践力の向上ー探究という視点からー」
研修内容の概要	1部：“遊びの概念” 幼児期の遊びについて 2部：五領域の理解幼児教育の概要を抑えながら、主に幼児の描画活動の発達を理解する。子どもの描画についての基本的理解を深める為のワークショップを体験する。
	[学習指導要領との関連]小学校図画工作科：「B鑑賞」（1）ア,〔共通事項〕ア・イ,「A表現」（1）イ,（2）イ, 「A表現」（1）ア （2）ア
内容と方法	1 部： ○図画工作科で低学年から高学年へと拡張されてきた「造形遊びをする活動」について、その内容を理解し、実践力を養う。 ○幼児教育の概要、幼少連携のためにも必要な幼児期についての理解を深め、小学校造形教育へと生かす。教育・保育要領解説（平成30年）幼保連携型こども園を基に「満3歳以上の園児の教育に関するねらい及び内容」（5領域の理解）、幼児の造形と「遊び」への考察、発達と幼児期の「遊び」の概念と環境より。 ○日本美術・絵画の鑑賞のしかた。伝統的な日本絵画に触れ、表現の性質、精神性、アイデンティティーについての考察を深める。 ○ワークショップ,墨による技法と表現、水墨画を描く～「墨から生まれる世界」、教科書にも記載されている、東洋の伝統的な技法と表現について理解を高める。 2 部： ○子どもの描画発達についての考察ー幼児から児童・生徒までの記録をパワーポイントで解説。 ○人物クロッキー：鉛筆を使用したワークショップー8つ切り画用紙を支持体に鉛筆で多様な描画の在り方を実践を通して、理解を深める。 ○「造形遊びをする活動」と「絵や立体工作に表す活動」の構造的理解ー小学校学習指導要領解説図画工作科編を基に「造形遊びをする活動」と「絵や立体工作に表す活動」双方の本質的な差異について考察すると共に、現行教科書に掲載されている具体的事例を参照しながら実践に即した理解を深める。本解説は「A表現」（1）発想や構想に関する項目ア及びイ、「A表現」（2）技能に関する項目ア及びイに対応している。それぞれの項目については、専門講師が担当するオムニバス形式であり、他の講師は実技補助により個別指導を行う。
到達目標	幼児教育における「遊び」の概念と子どもの描画についての認識を深め、指導者自身の描画活動における資質向上を目的としている。

	実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30 受付	
	9:30～10:45 開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集 3104教室／動画視聴
	10:45～11:00 休憩・会場移動	
	11:00～12:00 研修プログラム及びタイムテーブルの説明（10分）・幼児教育の概要	参集 3104教室
	12:00～13:00 昼食	
	13:00～14:00 現行教科書記載内容の実践と考察	参集 3104教室
	14:00～15:30 子どもの描画発達についての考察（レジュメ配布）	各自作業
	15:30～16:40 鉛筆を使用したワークショップ	グループワーク
	16:40～17:00 全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00 アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	・通常の筆記用具等	
特記事項	○資料の配布方法：当日、紙媒体で配布 ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：特になし	

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音1】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）

【実施日】令和8年9月29日（火）

担当大学名	愛知県立芸術大学			
会 場	（会場名） 愛知県立芸術大学 室内楽ホール（集合場所）管理棟3階大会議室			
	（所在地） 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114			
講 師 （肩書・氏名）	愛知県立芸術大学 音楽学部 教授 深町浩司 愛知県立芸術大学 美術学部 教授 森真弓			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	楽器概念の解体と「パーカッションの技法」の再発見——聴覚と触覚の再統合による”共鳴”の場から
研修内容の概要	本学における打楽器専門研究の高度な知見が、あらゆる物体を響きの媒体として扱ってきた研究実践を踏まえ、現代の音楽教育で陥りがちな「整えられた音の制御」から脱却するアプローチを提示する。自然木の枝を打ち合わせ、手に伝わる振動（触覚）と耳に届く響き（聴覚）を再統合させる「パーカッションの技法」を体験的に学ぶ。これにより、正解の音を揃える合奏指導ではなく、互いの差異を聴き取り調律し合う、探究的なアンサンブル指導の工夫改善に資する視点を習得する。 [学習指導要領との関連] 中学校音楽科：第1学年、第2学年及び第3学年「A表現」(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ア)(イ)、(3)創作ア、イ(イ)、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科：音楽Ⅰ、音楽Ⅱ「A表現」(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ア)(イ)(イ)、(3)創作ア、イ、ウ(ア)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ「A表現」(2)器楽ア、イ(ア)、ウ、(3)創作ア、イ、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ
内容と方法	1) 打楽器領域の専門研究が提示する、対象の内部を診断・傾聴するための「パーカッションの技法」についての理論解説 2) 不揃いな「自然木の枝」を用い、敲打場所や角度、強弱によって変化する手応え（触覚）と響き（聴覚）を読み取る単独演習 3) 二人一組またはグループとなり、相手の発する「整っていない音」に対して、自身の身体と枝の響きを即興的に適応させ、調和（社会の再調律）を試みる対話的アンサンブルの実践 4) 既成の楽器が用意できない環境や、異なる背景をもつ他者との協働において、本技法をどのように授業設計や評価規準に落とし込むかについての協議
到達目標	1) パーカッションを楽器の名称ではなく、触覚と聴覚を再統合して対象を深く知覚する技法（メソッド）であると理解し、その指導法を習得する 2) 均質ではない自然素材（木の枝）の「手応え」を基に、生徒自身が観察・判断して音を選択していく「音づくり」の教材分析の視点を獲得 3) 互いの異なる響きを認め合いながら即興的に応答する活動を通じ、社会における差異に対して新たな価値として認める視点を獲得 4) 指導要領が掲げる、生活や社会の中の音や音楽、およびそれらを取りまく文化と豊かに関わる資質・能力を具体化する授業計画を立案できるようになる

	実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付（管理棟 3 階大会議室）
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科調査官）
	10:45～11:00	休憩・会場移動
	11:00～12:00	楽器概念の解体と「パーカッションの技法」の理論（本学における打楽器専門研究の高度な知見が導き出す文明批評と音響生態学）
	12:00～13:00	昼食
	13:00～14:00	自然木の枝を用いた「打診」と「手応え」の身体的知覚（触覚と聴覚の再統合・自己の調律）
	14:00～15:30	非楽音による即興アンサンブルと「共鳴」の場の構築（他者受容と社会の再調律）
	15:30～16:40	グループワーク・振り返り：中学校・高等学校における授業展開および評価方法の検討
	16:40～17:00	調査官による全体講評、総括
	17:00	アンケート提出後、研修終了
教材・持ち物等	筆記用具、タブレット端末（授業案記録用）	
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等： ・定員数を可能な限り多く確保できるよう、学内の広い実習室やホールを調整し、本学の教育課程専門教員（教職担当）との密接な連携体制を整えて実施いたします ・昼食は生協購買部ならびに食堂が営業しておりますが、お昼の時間帯は混み合いますので、ご持参いただくことをお勧めいたします	

令和8年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音2】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和8年10月2日（金）**

担当大学名	京都市立芸術大学			
会 場	(会場名) 京都市立芸術大学 B棟地下1階 笠原記念アンサンブルホール			
	(所在地) 京都府京都市下京区下之町57-1			
講 師 (肩書・氏名)	音楽学部 ピアノ専攻 准教授 塩見 亮			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	ピアノ伴奏法の実践と考察 ― アンサンブル表現と演奏指導をめぐって		
研修内容の概要	「楽器の王様」とも称されるピアノは、同時に多くの音を奏でられる特性をもつからこそ、音楽的な要素（旋律、和声、リズムの支えなど）はもちろんのこと、時にはオーケストラの役割を一人で担うなど、その役割は多岐にわたります。 そんなピアノを用いたアンサンブル「伴奏」をテーマにした本研修では、様々な編成における伴奏の鑑賞、実践を通して、「タイミングを合わせる」とことと「息を合わせる」とこととの違いについて理解を深め、伴奏法の視点のみならず、日々の演奏指導やアンサンブル教育にどのように生かしていくかを考察する機会になればと考えます。		
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科： 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(1)歌唱ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、(2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科： 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(1)歌唱ア、イ(ア)(イ)(ウ)、ウ(ア)(イ)(ウ)、(2)器楽ア、イ(ア)(イ)(ウ)、ウ(ア)(イ)(ウ)、「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	午前は、塩見による演奏で、本学の学部生・院生にお手伝いいただいて、「歌とピアノ」「管楽器とピアノ」「ピアノとピアノ」「弦楽器とピアノ」などを鑑賞します。 午後は、「独唱と合唱」の伴奏の実践として、木下牧子作曲「さびしいカシの木」を教材に、独唱と合唱の異なる二つの編成で実際に受講者に伴奏していただこうと思います。独唱は本学大学院生が行い、合唱につきましては受講の先生方に歌っていただきます。弾いてみた感じだけでなく、伴奏によって変化する「歌いやすさ」や感じ方を体験していただきます。		
到達目標	様々な編成における伴奏の鑑賞、実践を通して、伴奏についての理解を深め、学校での歌唱や演奏指導、アンサンブル教育等に生かすことができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	ピアノ伴奏によるアンサンブル鑑賞	参集（講義及び鑑賞）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:15	ピアノ伴奏実践（歌とピアノ）「さびしいカシの木」	参集（講義及び演習）
	15:15～15:30	休憩	
	15:30～16:00	ピアノ伴奏実践（歌とピアノ）「さびしいカシの木」（まとめ）	参集（講義及び演習）
	16:00～16:30	全体講評（教科調査官）	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	【楽譜集】木下牧子「女声・同声合唱による10のメルヘン 愛する歌」音楽之友社（さびしいカシの木（同声2部合唱）収録）※受講決定後郵送いたします。		
特記事項	○資料の配布方法：楽譜集は事前に郵送（楽譜は女声2部の書式ですが、男性の方も、必要に応じて音程を調整いただく形でご参加いただけます。ただし、調性は音譜にあるト長調に限ります。） ○事前・事後課題の有無：事前に、演奏・合奏の準備をしてお参加ください。 ○受講する上での環境条件等：昼食会場として学生食堂をご利用いただけますが、混雑している可能性があります。		